

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

1 学校の現状

- (1) 「あいさつのできる落ち着いた学校」として定着しつつある。
- (2) 基礎学力の定着が厳しい生徒が存在し、定期考査結果や学力調査通過率にはっきりと表れている。
- (3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。
- (4) ジョイントコンサートや環境浄化活動等をとおして、地域や関係幼保こども園・小学校・高校との連携が定着している。

2 前年度の成果

- (1) 「ハイオアシス運動」等、生徒会が中心となって推進し、積極的にあいさつができるようになってきた。また、学校生活には91%の生徒がほぼ満足している。
- (2) 開かれた学校づくり協議会主催のサタデースクールには、前期40名、後期49名の生徒が参加し、外部講師の指導を得ながら23回実施したが、自学自習に取り組める生徒とできない生徒の格差が存在する。
- (3) 地域や関係幼保園・小学校・高校との円滑な連携ができ、健全育成に有効である。

3 前年度の課題

- (1) あいさつのみならず、TPOをわきまえた礼儀作法等をさらに指導する。
- (2) 学習に対して努力が足りないと自覚している生徒が約2割存在しており、生徒の学習意欲を高める取組を行い、自主的な学習習慣を身に付けさせる。特に英語科の補習学習等の具体的対策を実施する。
- (3) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）**

- ・個別補習の充実：朝10分、国・数・英を中心として理・社、読書活動も含めた学習とする。放課後は20分、抽出生徒を個別指導する。
- ・学力調査に向けた取組：前年度調査の分析を基に傾向と対策による授業改善を各教員が実施し、確認テスト形式で基礎基本の定着を図る。
- ・様々な対策の有機的連鎖の促進：朝・放課後の補充学習、宿題、学習コンテストの関連を強化し各教科80点以上とれるまで再テストを実施する。
- ・サタデースクールの強化：ベーシック・アドバンスコースの2部制とし20名×2学級体制で自学自習に取り組みながら、基礎基本の定着が必要な生徒には外部講師が個別指導にあたる。
- ・小中連携事業による教員研修：小中連携合同研修会を分科会4回、研究授業4回実施し、教員の授業力向上と授業改善を図る。

重点的な取組事項－2 生徒による主体的な活動の推進

- ・創立70周年記念行事の成功：創立70周年を機に、自校の歴史と伝統を再認識するとともに、現在の本校のよさを積極的に発信する。
- ・自発的自治的な活動の推進：「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等への積極的な参加を生徒会が促す。
- ・いじめの根絶：いじめ対策校内委員会を中心に、教職員の共通理解のもと組織として機能させる。
- ・生徒会、委員会活動の活性化：生徒会朝礼時に各委員会の取組を発表する場を設定する。毎日全校生徒で清掃に取り組み、学校の環境を整備する。

重点的な取組事項－3 小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践

- ・小中連携合同研修会：教科ごとの研究授業と協議会を実施する。
- ・ジョイントコンサート：参加人数400名を超える。
- ・環境浄化活動：参加人数600名を超える。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）**

- ・個別補習の充実：朝10分の学習は、全校で取り組んでいる。放課後の個別指導は、行事等により実施できない場合がある。放課後の個別指導については、指導方法と内容を改善する必要がある。
- ・学力調査に向けた取組：通過率59.4%で前年度の調査結果よりも4.5%向上した。2・3年、数学・英語通過率が50%未満で、基礎学力向上校に指定された。
- ・様々な対策の有機的連鎖の促進：学習コンテストは、3回実施し、国語86.5%、数学77.8%、英語85.8%の

合格率であった。コンテストにおいては、特に2年男子の数学の得点力を向上させる必要がある。

- ・サタデースクールの強化：前期9回・後期13回・計22回実施していただき、前期36名・後期39名・計75名の生徒が参加した。主体的に学習に取り組む態度を育成するには、非常に有効であった。大学生の講師が就職等により、指導に来校できなくなっているため、増員を図る。
- ・小中連携事業による教員研修：中川東・大谷田・長門小学校と連携し、「主体的、対話的で、深い学び」を実践するための授業研究を教科ごとに実践し、授業力向上に努めた。円滑な小中接続にも一役を担っている。

重点的な取組事項－2 生徒による主体的な活動の推進

- ・創立70周年記念行事の成功：実行委員会をはじめとするPTA・OB・同窓会等の皆様のご協力により、円滑に運営することができた。さらに、同窓生の本校に対する愛校心と地域の愛情を目の当たりにし、地域立中学校としての使命を熱く感じた。より一層地域に還元できる教育を展開していく。
- ・自発的自治的な活動の推進：生徒は生徒会・生活委員会を中心に毎朝元気にあいさつを交わしているが、教員には積極性が欠けている。教職員も朝や授業時だけでなく、個別に声を掛けていくよう、心掛けていく。
- ・生徒会、委員会活動の活性化：

重点的な取組事項－3 小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践

- ・小中連携合同研修会：授業研究を教科ごとに実践し、授業力向上に努めた。小学生の中学校授業部活動体験を実施する等、円滑な小中接続にも一役を担っている。
- ・ジョイントコンサート：今年度から大谷田第一・第二保育園も参加し、まさに地域ぐるみの行事となった。観客動員も前年度より増員した。さらに、地域とともに盛り上げていく。
- ・環境浄化活動：恒例の行事となり、幼児から高齢の方まで約800名が参加した。次年度も継続していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

創立70周年記念事業においては、実行委員会を中心に、PTA・家庭・地域・同窓会等関係の皆様のご支援により盛大に成功させることができましたこと、感謝申し上げます。

落ち着いた学校生活を送ることができ、学習や部活動に励んでいるのも、保護者や地域のみなさまのご理解ご協力の賜と感謝しております。

学習面では、基礎学力の未定着な生徒が存在します。今年度より家庭学習の習慣化を図れるよう家庭学習ノートの提出も全校で始めました。教科指導では、基礎基本の定着を重点に授業改善を進めています。また、開かれた学校づくり協議会ではサタデースクールを運営していただき、生徒の学習意欲を向上させていただいております。運動会や学芸覧会等の学校行事では、保護者や地域のみなさまの多大なるご支援のもと、生徒たちは積極的に取り組み、すばらしい充足感を得ることができています。さらに、ジョイントコンサートや環境浄化活動等、地域のみなさまと一緒に幼保小中高の円滑な連携が図れています。

今後とも「おらが学校」「地域立中学校」として、学力向上と健全育成に邁進してまいりますので、より一層のご理解ご支援賜りますようお願いいたします。

2. 平成29年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成	区学力調査 通過率58%	59.4%	2・3年、数学・英語通過率が50%未満	●

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
個別補習の充実	毎日、朝10分、放課後20分間、補習学習を確保する。	朝10分、国・数・英を中心として理・社、読書活動も含めた学習とする。放課後は20分、抽出生徒を個別指導する。	朝10分の学習は、全校で取り組んでいる。放課後の個別指導は、行事等により実施できない場合がある。	放課後の個別指導については、指導方法と内容を改善する必要がある。	△
学力調査に向けた取組	全校平均通過率を58%にする。 H28 54.9% →3.1%up	前年度調査の分析を基に傾向と対策による授業改善を各教員が実施し、確認テスト形式で基礎基本の定着を図る。	通過率59.4%で前年度の調査結果よりも4.5%向上した。	2・3年、数学・英語通過率が50%未満で、基礎学力向上校に指定された。	●

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
様々な対策の有機的連鎖の促進	各教科の学習コンテスト合格率を平均 80%とする。	朝・放課後の補充学習、宿題、学習コンテストの関連を強化し各教科 80点以上とれるまで再テストを実施する。	学習コンテストは、3回実施し、国語 86.5%、数学 77.8%、英語 85.8%の合格率であった。	コンテストにおいては、特に2年男子の数学の得点力を向上させる必要がある。	△
サタデースクールの強化	開かれた学校づくり協議会主催により、年間 25回程度実施し、自学自習に取り組む。	ベーシック・アドバンスコースの2部制とし 20名×2学級体制で自学自習に取り組みながら、基礎基本の定着が必要な生徒には外部講師が個別指導にあたる。	サタデースクールは、前期9回・後期13回・計22回実施していたが、前期36名・後期39名・計75名の生徒が参加した。主体的に学習に取り組む態度を育成するには、非常に有効であった。	大学生の講師が就職等により、指導に来校できなくなっているため、増員を図る。	○
小中連携事業による教員研修	小中連携合同研修会を分科会4回、研究授業4回実施し、教員の授業力向上と授業改善を図る。	「主体的、対話的で、深い学びの実践」をテーマに教科部会を軸とした小中連携事業は、昨年度より内容的に向上している。	年間6回の小中連携事業により、教員の相互理解が深まり、授業力以上の効果が生徒指導面でも現れている。	研究授業以外にも小学生の授業部活動体験等を実施し、教員の授業力向上と小中の円滑な接続には、有効であった。	○

重点的な取組事項－2 生徒による主体的な活動の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）を育む。	「教育活動に対する自主的な取組」で肯定的な回答を 90%以上にする。	学校生活には 86%の生徒がほぼ満足していると回答しているが、1・3年生は充足度が高い。	70周年記念行事にはたくさんの方のご支援をいただき、生徒・教職員ともに感謝している。	○

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
創立 70 周年記念行事の成功	創立 70 周年記念行事に参加することにより愛校心を育む。	創立 70 周年を機に、自校の歴史と伝統を再認識するとともに、現在の本校のよさを積極的に発信する。	実行委員会をはじめとする PTA・OB・同窓会等の皆様のご協力により、円滑に運営することができ、また、同窓生の本校に対する愛校心と地域の愛情を痛感した。	さらに地域立中学校としての使命を熱く感じた。より一層地域に還元できる教育を展開していく。	◎
自発的自治的な活動の推進	取組への積極的な参加、生徒の変容で判断する。	「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等への積極的な参加を生徒会が促す。	学校生活には 86%の生徒がほぼ満足していると回答しているが、1・3年生は充足度が高い。	あいさつは、教職員からも積極的に声を掛けるようにする。	△
いじめの根絶	いじめの未然防止、早期対応を行い、いじめ発生ゼロを目指す。	いじめ対策校内委員会を中心に、教職員の共通理解のもと組織として機能させる。	重篤な事象は前期に1件発生したが、組織的対応により、早期に解消することができた。	未然防止・発生ゼロを目指す。早期発見・早期解消を組織的に対応する。	○
生徒会、委員会活	清掃活動、校内	生徒会朝礼時に各委員	生徒会朝礼では、役員	さらに各委員会	○

動の活性化	美化に積極的に取り組んだ生徒の割合を85%以上にする。	会の取組を発表する場を設定する。毎日全校生徒で清掃に取り組み、学校の環境を整備する。	からの呼びかけや生活委員からの目標と反省の発表に加え、図書紹介等もできるようになってきた。	が活性化するよう指導し、主体的学校生活が送れるようにする。	
-------	-----------------------------	--	---	-------------------------------	--

重点的な取組事項－3 小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携合同研修会を年間6回実施し、各教科の教員の授業力向上とともに、生徒理解の連携を図る。 おおやたこども園、中川東・大谷田・長門小学校、足立東高校、地域と連携を図り、郷土愛の心を育成する。	小中連携研究授業を各校1回ずつと必要に応じた分科会を教科ごとに実施するとともに、児童生徒についての共通理解を図る。 ジョイントコンサート400名以上、環境浄化活動600名以上の参加人数にする。	年間6回の小中連携事業により、教員の相互理解が深まり、授業力以上の効果が生徒指導面でも現れている。	研究授業以外にも小学生の授業部活動体験等を実施し、教員の授業力向上と小中の円滑な接続には、有効であった。	◎

目標実現に向けた取組	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携合同研修会	年間8回実施	教科ごとの研究授業と協議会を実施する。	年間6回の小中連携事業により、教員の相互理解が深まり、授業力以上の効果が生徒指導面でも現れている。	研究授業以外にも小学生の授業部活動体験等を実施し、教員の授業力向上と小中の円滑な接続には、有効であった。	○
ジョイントコンサート	参加人数400名を超える。	11月11日(土)、都立足立東高校を会場に、こども園・保育園・小学校・中学校・高校が一堂に会し、地域の皆様に音楽活動を発表する。	今年度から大谷田第一・第二保育園も参加し、まさに地域ぐるみの行事となった。観客動員も前年度より増員した。	さらに、地域とともに盛り上げていく。	◎
環境浄化活動	参加人数600名を超える。	11月26日(日)、十二中学校学区を長門・大谷田小学校・十二中学校を起点に地域ぐるみで清掃活動を実施する。	恒例の行事となり、幼児から高齢の方まで約800名が参加した。	次年度も継続していく。	◎

3. 学校活動全般について

<p>創立70周年記念行事をはじめ、ジョイントコンサートや環境浄化活動をとおして、家庭・地域・同窓生の本校に対する熱い想いが伝わってきた。</p> <p>学校生活に満足している生徒の割合は多く、行事や部活動には積極的に取り組み、達成感も高い。</p> <p>その反面、基礎学力が定着していない生徒も存在しており、個別の指導を図るとともに、授業改善・指導方法の工夫に取り組んでいく。</p> <p>「あいさつができる」といわれているが、現状維持ではなく、さらに質の向上ができる指導・支援を実施していく。</p> <p>家庭や開かれた学校づくり協議会、おやじの会、地域の方々のご支援ご協力への日頃の感謝をかたちで表せる「おらが学校」「地域立学校」として学力向上と健全育成をさらに推進する。</p>
--